

## 教科領域実践コース

澤田 有里

私は、本学部の保健体育科から進学しました。学部の4年次に行ったサポーター実習で、教師になりたいという思いが一層強くなったと同時に、自分の指導力や知識・技能などの力不足を痛感しました。このことから、教職大学院へ進学することを決めました。

教職大学院で私が一番に魅力を感じていることは、現職の先生方と一緒に学ぶことができるということです。特に1年前期は現職の先生方と共に学ぶ機会が多く、実際の生徒の様子や授業スキル、校務分掌などについて「生の声」をたくさん聞くことができました。また、一つの講義に担当の先生が2～3人いるため、多様な考えを聞くことができ、多面的に考えることができました。

また、私が所属する教科領域実践コースでは、自分の専門科目に関する講義を受けることができ、学部の先生方からも専門的な知識や技能を学ぶことができました。研究に対して学部時代からお世話になっている先生方からアドバイスをいただくこともできたため、とても心強かったです。

フィールド実習では、年間を通して授業や学校行事など、様々な教育活動に関わらせていただくことができ、生徒と良い人間関係を築くこともできてとても楽しく実りある活動になりました。実習の前中後には、院生全員と先生方で実習を振り返る省察検討会もあったため、実習がやりっぱなしにならず、成果や課題を振り返り、次へと繋げることができました。

1年次は慣れないことが多かったり、多数の講義に加えて実習や研究を進めたりするのは大変でしたが、院生や先生方、たくさんの方に温かく支えていただけたため、なんとか頑張ることができました。教職大学院で学ぶことはどれも現場ですぐに生かすことができる内容ばかりで、とてもためになっており、入学して良かったと思っています。残り1年さらに精進し、学び続ける教師になりたいと思います。